

# 日中の対訳辞典 からみた日中同形語記述の問題点 —同形類義語を中心に—

林 玉恵

## 1. はじめに

日本語と中国語において、「同じ漢字」<sup>(1)</sup>で表記される語、例えば、「愉快」と“愉快”<sup>(2)</sup>のような語は日中同形語（以下同形語と略す）と呼ばれる。同形語は字面通り、字の形が同じであるが、その意味は複雑な対応関係をなしている。そのため、従来同形語に関する研究の大半は意味の類似と相違に着目している。しかし、同形語が、日中両語の中でどのように扱われているのか、また、いままでの研究成果はどのように応用されているのかという点については、あまり言及されていない。本稿ではこのような研究の不足を補うため、日中両言語の学習者がよく使用する日中の対訳辞典における同形語記述の実態を検討することにする。なお、本稿の目的としては、日中の対訳辞典における同形語記述の問題点を指摘し、その問題点が生じた原因を究明し、より精密な記述の条件を提示することである。

## 2. 研究対象

### 2.1 日中の対訳辞典について

日中の対訳辞典を大きく分けると、日本語から中国語への日中・日華・日漢辞典と、中国語から日本語への中日・漢日辞典との二種類が挙げられる。ただし、注意すべきことは、この二種類のうち、前者の歴史は後者より長く、出版された量も多いということである。また、日中の対訳辞典はその出版された場所によって、日本で出版されたものと、中国大陸で出版されたものと、台湾で出版されたものとに分けられる。筆者は台湾出身の日本語学習者であり、学習過程から台湾で出版された日中の対訳辞典を使用してきたので、本

稿の考察の対象はこれらの辞典に限定する。台湾で出版された日本語から中国語訳への辞典は日華・日漢辞典<sup>(3)</sup>の名で呼ばれ、中国語から日本語訳への辞典は中日・漢日辞典と呼ばれることが多い。例えば、前者は『大新明解日華辭典』や『新時代日漢辭典』と命名され、後者は『當代中日辭典』や『小簡明日漢漢日辭典』と名づけられている。また、台湾で出版された日中の対訳辞典のなかには、日本もしくは中国大陸で出版されたものの台湾版もあるが、本稿ではこれらの辞典を取り扱わないことにする。本稿で考察の対象とする日中両語の対訳辞典は、現在台湾で広く使われている以下の6種であり、本稿で使用する略称とともに次の表に示す。ただし、前述したように中国語から日本語への辞典は出版量が少ないので、二冊に限る。

|             | 年代   | 書名(略称)                       | 編者   | 出版社       | 収録語数                         |
|-------------|------|------------------------------|------|-----------|------------------------------|
| 日<br>↓<br>中 | 1983 | 大新明解日華辭典(大新)                 | 千田勝己 | 大新書局      | 60,000~80,000 <sup>(4)</sup> |
|             | 1985 | 萬人現代日華辭典(萬人)                 | 謝逸朗  | 萬人出版社有限公司 | 約66,000                      |
|             | 1998 | 永大簡明日華辭典(永大)                 | 劉元孝  | 永大書局      | 約85,000                      |
|             | 2000 | 新時代日漢辭典 <sup>(5)</sup> (新時代) | 陳伯陶  | 大新書局      | 約80,000                      |
| 中<br>↓<br>日 | 1993 | 當代中日辭典(當代)                   | 左秀靈  | 建宏出版社     | 約30,000                      |
|             | 1998 | 常用中日辭典(常用)                   | 許秀芬  | 大新書局      | 約16,000                      |

## 2.2 日中同形語及び調査語について

いままで同形語に関する研究と分類は、一応の基準として文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』に従ってきた。同書が出版されて以来、各グループに属する語が適当かどうかについて、さまざまな批判も受けてきたが、その分類自体は同形語を見分ける際の便宜的なものである。次はその分類である。

Same(S): 日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。

Overlap(O): 日中両国語における意味が一部重なってはいるが、両者の間にずれのあるもの。

Different(D) : 日中両国語における意味が著しく異なるもの。

Nothing(N) : 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

言い換えれば、「S」は同形同義語、「O」は同形類義語、「D」は同形異義語である。「N」は同形語ではないので、ここでは検討しないことにする。同形類義語の「O」は同形同義語の「S」と同形異義語の「D」と両方の場合があるので、同形語の中で一番厄介なものである。これらは記述の際、最も問題になりやすいと思われるので、本稿では、この「O」類の同形語を対象にして、日中の対訳辞典記述の問題点を考察することにする。『対応』では、「O」類の同形語を意味の重なり具合<sup>6)</sup>によって分類しなかったが、「O」類の同形語はさらに「日本語に他の意味があるもの」(以下「J+」と略す)、「中国語に他の意味があるもの」(以下「C+」と略す)、「日中両言語とも他の意味があるもの」(以下「JC+」と略す)に分類することができる。以下に、「O」類の同形語の3分類について、それぞれの例をあげて説明する。

●日本語に他の意味があるもの(「J+」) : (例)「反対」と“反對”

- ①ある意見などに対してさからうこと。……………日中共通の意味
- ②物事が対立、逆の関係にあること。……………日本語特有の意味

●中国語に他の意味があるもの(「C+」) : (例)「対象」と“對象”

- ①行動または思考の目標となるもの。……………日中共通の意味
- ②恋愛、結婚の相手。……………中国語特有の意味

●日中両言語とも他の意味があるもの(「JC+」) : (例)「単位」と“單位”

- ①数量の基準。……………日中共通の意味
- ②高等学校以上で、学習の基準量。……………日本語特有の意味
- ③機関、団体あるいはそれらに属す各部門。……………中国語特有の意味

以下「O」類の同形語の3分類について考察する。なお、調査対象とする語は日常の言語生活において、重要度が高い、あるいは不可欠なものに絞りたいので、具体的な語例は『新明解国語辞典 第五版』(三省堂 1997)の「重要語」3,439の中の二字同形語1,358語から選び出したものである。今回は筆者が調査した語の中で次の表で示した30語の問題点が顕著であったため、これらの語に絞って検討した。ただし、本稿ではこの30語の中、問題点が最も

顕著である語、「犠牲」、「愉快」、「深刻」、「翻訳」などについて検討することにする。また、日華・日漢辞典を対象にする場合、「J+」の同形語の記述は問題が起りやすいと思うので、調査語の「愛情」…「訪問」を調査する。中日辞典を対象にする場合、「C+」の同形語の記述は問題が起りやすいと思うので、調査語の「影響」…「輸入」を調査する。日華・日漢辞典と中日辞典の両方を対象にする場合、「JC+」の同形語の記述は問題が起りやすいと思うので、調査語の「新鮮」…「要求」を調査する。

| 類別  | 調査語 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| J+  | 愛情  | 会計 | 活発 | 犠牲 | 深刻 | 適当 | 反対 | 必要 | 表情 | 訪問 |
| C+  | 影響  | 関心 | 簡単 | 検査 | 嚴重 | 成績 | 提供 | 同情 | 特別 | 輸入 |
| JC+ | 新鮮  | 接近 | 専門 | 掃除 | 單純 | 熱中 | 保留 | 翻訳 | 愉快 | 要求 |

### 3. 日中の対訳辞典からみた日中同形語記述の問題点

#### 3.1 日中の対訳辞典における日中同形語の記述及びその役割

日中の対訳辞典における日中同形語記述の問題点を検討する前に、まず、「愉快」と“愉快”の記述を見ながら日中の対訳辞典の役割を考える必要がある。「愉快」と“愉快”を例にして、『新時代』（日華・日漢辞典）と『當代』（中日辞典）の記述を見てみよう。

例1 『新時代』（日華・日漢辞典）ゆかい㊦【愉快】[名・形動ダ]ふゆかい(不愉快)。1. 愉快。☆彼は～そうに笑った/他高興地笑了。☆～な一日を過した/度過了愉快的一天。2. 有趣。☆いつも～な事を言う/總是說有趣的話。3. 難以想像。覺得奇怪。☆あいつが入学できたとは～だ/他竟然能考上了學校,令人難以想像。(～さ㊦ [名])

|    |             |     |     |       |             |
|----|-------------|-----|-----|-------|-------------|
|    | 一日を～<br>過ごす | ～人物 | ～室温 | ～承知する | 住むのに<br>～土地 |
| 愉快 | ・に○         | ・な○ | ・な－ | ・に－   | ・な－         |
| 快い | ・く○         | －   | ○   | ・く○   | －           |
| 快適 | ・に○         | ・な－ | ・な○ | ・に－   | ・な○         |

『當代』(中日辞典)【愉快】愉快である。楽しい。△～的微笑/うれしそう  
な微笑。△心情~/心がなごむ

『新時代』の語の記述の項目は、見出し語の読み方、アクセントの指示、見出し語の漢字表記、品詞の指示、見出し語の訳語、用例及びその訳文などがあり、語によっては見出し語からなる複合語の提示、類義語間の比較の一覧表などがある。一方、『當代』は、見出し語の訳語や用例及びその訳文などがあり、語によっては見出し語からなる複合語の提示あるいは位相の提示があるが、それ以外の記述の項目はない。両者の記述法は、日本の国語辞典に中国語訳を、中国語の辞典に日本語訳をつけたにすぎず、対訳辞典なりの工夫が見られないことは、日中の対訳辞典における日中同形語記述の大きな問題点の一つであろう。また、同形語が数多く存在するため、日華・日漢辞典は他の対訳辞典と異なって、同形語について何らかの工夫をして記述する必要がある。この点については、現存する他の日華・日漢辞典にも同形語についての記述あるいは説明は全く見られない。同形語が数多く存在し、また意味上の類似・相違があるにもかかわらず、それらについての説明がないので、日中の対訳辞典の機能が十分に働いているとは言えない。

### 3.2 日中の対訳辞典における日中同形語記述の問題点

今回調査した語の記述の問題点は、「A.訳語問題」、「B.誤訳と不適切な説明」、「C.意味項目の立て方」といった意味レベルの問題が顕著であるが、「D.用例及び典型的な文型の提示」、「E.品詞の提示」、「F.用例及び文型が提示されていない」といった文法レベルの問題も見られる。「A.訳語問題」はさらに「A-1.一見出し語一訳語」、「A-2.説明形式の訳語」、「A-3.訳語が用例に活用されていない」などに分けられる。以下、「犠牲」、「愉快」、「深刻」、「翻訳」などの語例を用いてA～Fの問題点を検討することにする。

#### 3.2.1 A. 訳語問題

##### A-1. 一见出し語一訳語 — 「愉快」と“愉快”を例として—

次の『大新』と『永大』では「愉快」の訳語として“愉快”という一つの

訳語しか提示していない。

例2『大新』（日華・日漢辞典）\*ゆかい【愉快】（形動ダ）愉快；☆愉快な（の）一日を送る/度過愉快的一天。□

『永大』（日華・日漢辞典）ゆかい【愉快】ユカイ（名・形動）愉快；※愉快な日々をおくる/過愉快的每天。

「愉快」は、「楽しく気持ちのよいこと」（『大辞泉 第一版』（小学館 1995）の意味において“愉快”に置き換えられるが、「面白く、心が浮き立つこと。また、そのさま。」（『大辞泉』同上）や「意想外の出来事なので、それに接する人に意外感や一種の痛快感を与える様子。」（『新明解国語辞典 第五版』（三省堂 1997）の意味において、“愉快”に置き換えられず、これらの場合「愉快」はそれぞれ“快樂”・“有趣”・“有意思”や“難以想像”などに訳さなければならない。したがって、「愉快」は“愉快”という一訳語で間に合わないことが明らかである。

#### A-2. 説明形式の訳語 — 「犠牲」と“犠牲”を例として—

例3『永大』（日華・日漢辞典）ぎせい【犠牲】ギセイ（名）①犠牲[＝いけにえ]；②爲了達到目的而奉獻生命以及其他一切；～だ【犠牲打】ギセーダ（名）[運]（棒球）犠牲打（打者犠牲自己而使跑者進壘或得分的打球）。

『永大』において“爲了達到目的而奉獻生命以及其他一切”（ある目的のために、その人の生命やかけがえの無いものを提供すること）というような説明形式の訳語が見られる。実はこれはそのまま“犠牲”に訳せるので、説明形式の訳語はできるだけ避けるべきであろう。つまり、適切な訳語がある場合、わざわざ説明を加える必要はないが、語によって目的の語に対応する適切な訳語がない場合、逆に説明形式の訳語は親切だと思われる。

#### A-3. 訳語が用例に活用されていない — 「愉快」と“愉快”を例として—

例1の『新时代』では「愉快」の訳語として“愉快”、“有趣”、“難以想像”、“覺得奇怪”などを提示しているが、そのうちの“覺得奇怪”は用例に出ない。また、これと逆に訳語は提示されていないが、用例に出ている場合

もある。例えば、“高興”は訳語として『新時代』の「愉快」という項目に提示されていないが、用例の中に出ている。これは、辞典で提示された訳語が実際に使えるかどうか辞典の使用者に疑問を持たせる。使いやすさ及び分かりやすさを前提としている辞典については、見出し語の訳語はできるだけ用例を掲げる方が望ましい。

### 3.2.2 B. 誤訳と不適切な説明 — 「深刻」と“深刻”を例として—

例4 『萬人』（日華・日漢辞典）しんこく回【深刻】〔形動ダ〕①深刻。～な印象/深刻的印象。②重大。嚴重。そんな～な顔をするな/別那麼愁眉苦臉的。問題は～だ/問題嚴重。～か回【～化】〔名・自サ〕嚴重化。（～さ回）

『新時代』（日華・日漢辞典）しんこく回【深刻】〔形動ダ〕1. 深刻。☆～な印象/深刻的印象。2. 嚴重。☆都市の住民にとって住宅問題は～だ/對城市居民來說房荒是個嚴重的問題。☆そんな～な顔をするな/別那麼愁眉苦臉的。☆君は～に考えすぎる/你想得太嚴重了。～か回【～化】〔名・自サ〕嚴重化。☆不況が～している/經濟蕭條日趨嚴重。（～さ回〔名〕）

『萬人』と『新時代』では、「深刻な印象」という例を挙げ、それに対応する訳文は“深刻的印象”を示している。しかし、“深刻的印象”は普通好ましい意味で用いられる言葉である。例えば、“日本之旅給我留下深刻的印象。”

（日本の旅は私に深い印象を残した。）のような例である。つまり、“深刻的印象”は日本語に訳せば「深い印象」になる。それに対して、「深刻な印象」は普通使わないが、もし使うとすれば好ましくない意味で用いる。なお、『大新』では「深刻な社会問題」を“深刻的社會問題”と訳しているが、“嚴重的社會問題”（重大な社会問題）に直すべきであると考え。なぜなら「深刻な社会問題」の「深刻」は、軽々しく取り扱えない、重大な社会問題であることを意味しているからである。この「深刻」も好ましくない意味で用いられている。

### 3.2.3 C. 意味項目の立て方 — 「翻訳」と“翻譯”を例として—

例5 『大新』（日華・日漢辞典）\*ほんやく【翻訳】（名・他サ）①翻譯；☆この小説

はフランス語から翻訳したものだ/這篇小説是從法語翻譯的; ☆英語に翻訳する/譯成英語; ②翻譯的東西; 譯本; ☆トルストイの小説を翻訳で読む/讀托爾斯泰的小説的譯本。回

『萬人』(日華・日漢辞典)ほんやく回【翻訳】[名・他サ]翻譯。この小説は中国語から～したものです/這小説是由中文翻譯過來的。△～家/翻譯家。

『永大』(日華・日漢辞典)ほんやく【翻訳】ホンヤク(名・他サ変)①翻譯; ②翻譯的東西; 譯本。

『新時代』(日華・日漢辞典)ほんやく回【翻訳】[名・他サ]翻譯。☆わたしは～もし、通訳もする/我做翻譯又做口譯。☆日本語の小説を中国語に～する/把日文小説譯成中文。△～権/翻譯權。△～家/翻譯家。

日華・日漢辞典では、「翻訳」の意味記述に関して、意味項目が一つ立てられているものと、二つ立てられているものとに分けられる。前者は『萬人』と『新時代』であり、後者は『大新』と『永大』である。『萬人』と『新時代』では「翻訳」の意味項目は一つにまとめられているが、「翻訳」の「訳本。訳。」の意味が記述されていない。

例6『當代』(中日辞典)【翻譯】通訳する。翻訳する。△～日文小説/日本語の小説を翻訳する。△當～/通訳をつとめる

中日辞典の『當代』では“翻譯”の訳語として、「翻訳する」や「通訳する」を提示しているが、ここには「通訳」という意味項目は立てられていない。「C. 意味項目の立て方」という問題点は今回調査した語のすべてについて見られ、日中の対訳辞典の大きな問題点の一つであると指摘したい。

### 3.2.4 D. 用例及び典型的な文型の提示

辞典に求められる条件の一つは、的確かつ豊富な用例があることである。極端に言えば、対訳辞典において、訳語がなくても用例の訳から訳語を見出せるはずなので、用例の提示は重要だと思われる。

### 3.2.5 E. 品詞の提示

次の二つの理由によって、品詞の提示が重要だと思われる。一つ目は、品

詞が正しく示されなければ、その語の用法及び基本文型の把握に役立てることができない。もう一つは、同形語では品詞が異なる場合が少なくないので、品詞を正しく提示する必要がある。日華・日漢辞典は品詞提示をしているが、中日辞典は品詞表示をしていない。

### 3. 2. 6 F. 用例及び文型が提示されていない

目的の語についての用例や文型が一つも提示されていない場合がある。次の「翻訳」と「簡単」はその例である。

例7『永大』（日華・日漢辞典）ほんやく【翻訳】ホンヤク（名・他サ変）①翻譯；②翻譯的東西；譯本。

『常用』（中日辞典）[簡單] 簡單な。單純な。

日華・日漢辞典は「翻訳」や「要求」を除く、すべての調査語についての用例及び文型を提示しているが、中日辞典で用例及び文型の提示をしていないものは「簡単」、「提供」、「同情」、「輸入」、「單純」、「熱中」、「翻譯」、「要求」など多数ある。日中の対訳辞典は目的語の訳語の提示などの説明がもちろんのことであるが、用例や文型の提示も欠かせないと思われる。

## 4. 日中の対訳辞典からみた日中同形語記述の問題点が生じた原因

同形語記述の問題点が生じた原因は三つ挙げられる。第一は、編纂の際に各辞典を互いに参照するため間違った訳語を援用することである。第二は編集者が同形語を慎重に扱わなかったことである。第三は、日本の国語辞典の記述をそのまま用いて中国語訳をつけることである。

## 5. 日中の対訳辞典における日中同形語のより精密な記述条件

3. 2で挙げた問題点を踏まえて、日中の対訳辞典における同形語のより精密な記述は次の条件を満たさなければならないことが分かる。

- ①意味項目の立て方をより正確に提示すること。
- ②訳語を用例に活用すること。
- ③誤訳と不適切な説明を避けること。

④よく使われる例文及び典型的な文型を提示すること。

⑤品詞を提示すること。

以上の5点の他、特に同形語の記述については次の項目も入れる必要がある。

⑥位相を提示すること。例えば、文章語か日常語などを明示すること。

⑦慣用的結合を提示すること。

⑧同形語の類似・相違を明記すること。

## 6. おわりに

本稿では、同形類義語を取り上げ、同形語の問題点を指摘し、現行の日中の対訳辞典における同形語の記述は必ずしも十分でないことを述べた。そして、より精密な記述条件を試みに提示した。しかし、これら問題点が生じた原因の根本にあるのは、同形語の比較対照研究がまた不十分だということである。したがって、今後、日中の対訳辞典で確認した問題点を念頭におきながら、同形語の意味分析を行って、その成果を辞典の編集に役立てたいと考えている。

### 注

- (1) 日本語を表記する日本の漢字と中国語を表記する中国の漢字との間には、字体の差異が存在しているが、本稿では敢えて現行の細かい形の違いを無視して、「もとの字（康熙字典体に準じるもの）が同じであるもの」を同形語と判定し、論を進めることとする。なお、同形語という場合、同形である二語の発音の異同は無視して考える。つまり日本語の漢語を対象とするだけでなく、広い意味で訓読みの和語も含めることとする。
- (2) 本稿では日本の漢字を「」で、中国の漢字を“ ”で表わし、対照させることとする。なお、台湾の中国語は繁体字を用いるため、本稿は繁体字で示し、中国大陆の場合は簡体字のままです。
- (3) 台湾で出版された日中の対訳辞典の呼称については紙幅の制限上割愛する。
- (4) 『大新』の収録語数は同書の序文などに明記されていないが、同書の大きさから推測すると、六万から八万語の間であろう。
- (5) 『新時代』（修訂版）は1994年に出版されたが、本稿で扱うのは同書の2000年修訂版である。

る。

(6)本稿でいう意味の重なり具合とは、その語の意味と運用範囲を含むものである。

#### 参考文献

- 荒川清秀 (1979) 「中国語と漢語—文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて」『愛知大文学論叢』62 pp. 1-28
- 王永全 (1986) 「漢日辞典と中日辞典」『人文論究 (関西学院大学)』35-4 関西学院大学人文学会 pp. 80-93
- 王永全 (1992) 「漢日与日汉词典中的同形语误译现象不容忽视」辞书研究编辑部编辑 总第114期 上海辞书出版社 pp. 68-74
- 大河内康憲 (1997) 「日本語と中国語の同形語」、大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』、くろしお出版 pp. 411-447
- 玉村文郎 (1990) 「辞書」、玉村文郎編『講座日本語と日本語教育 第7巻 日本語の語彙・意味 (下)』明治書院 pp. 145-175
- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局

(りん ぎょくけい)